

短歌／連作 5首

秋山美咲

『愛』

とげだらけの君は世界に傷をつけるように書く 僕のいない世界を

嫉妬まみれで見えない壁ごと見える棘で刺せば 溢れる色は深夜な
のに色鮮やかで眩しい

視界にあるもの飲み込まないで 無にさせなければ止まらない心臓
を止めてみたくなるから

君に染み込み続ける救いの印 でも僕を見る目が変わらないのは定
められた運命なのだろうか

君が棘ごと僕の心に入り込もうとしても残念 僕は君の理想にはな
れない

【意味①】

優しくない僕に傷つけられた君は、本当の僕から目を背けるように、現実の僕とは真反対な優しい僕が存在する物語を書いていた。

僕ではない偽物の僕を見る君に嫉妬して、許せない感情に身を任せたまま、僕は君との間にいつの間にかできていた見えない壁ごと壊すように深夜、ナイフで君を刺した。

君の体からあふれ出る赤い血があまりにも鮮やかすぎて思わず目を逸らしてしまいそうだった。

君だけに見える君自身の感情(僕への怒りや死の恐怖)も君の視界に映っている僕も見ないふりなんてしないで。やっと本当の僕を見てくれて、嬉しくてたまらない感情のまま、今すぐにでも死なせて無にさせれば止まる心臓を止めてみたくなるから

君が求めている、優しい僕ならきつとするだろう救いを僕は君に傷をつけて楽にさせてあげること君の理想を叶えようとしたのに、僕を相変わらず憎悪の目で見るのは神が決めた避けられない運命だからなのだろうか。

僕と君との間にあった壁はないけれど、優しくない僕から優しい僕を取り戻そうとナイフを向けても無駄だ。

僕は君が望む優しい僕には、もうなれない。

【意味②】

現実の世界に傷つけられた君は、世界から目を背けるように私が存在しない、君だけの平和な世界である物語を書いていた。

君の救いが私ではなかったことに嫉妬して、それならばもういつそのこと、元凶である世界から君を楽にさせたくて、私は君との間にできた見えない壁ごと壊すように深夜、ナイフで君を刺した。

君の体からあふれ出る赤い血があまりにも鮮やかすぎて思わず目を逸らしてしまいそうだった。

君だけに見える君自身の感情（私への悲しみや死の恐怖）も君の視界に映っている私も見ないふりなんてしないで。やっと私を見つけてくれて、嬉しくてたまらない感情のまま、今すぐにでも死なせて無にさせれば止まる心臓を止めてみたくなるから

君が求めている、平和な世界で生きる物語の主人公ならきつとす
だろう救いを私は君に傷をつけて楽にさせてあげること君の理想
を叶えようとしたのに、私を相変わらず憂いを帯びた目で見るのは
神が決めた避けられない運命だからなのだろうか。

私と君との間にあった壁はないけれど、私から君が理想とする主人
公を取り戻そうとナイフを向けても無駄だ。

私は君が望む主人公には、もうなれない。

①不器用な『僕』からの『君』への愛

『僕』はもう、優しい僕にはなれない。つまり、かつて『君』が愛していた優しい僕にはもう、なれないということ。どうしてなのだろうか。『僕』が二重人格で、でも偽物の僕はもう消えたから？

『君』には本当の『僕』を見てほしいと思っているから？それを知っているくせに『僕』から目を背ける、そんな『君』をまだ『僕』は求めている。だから『君』の口からまた『僕』を欲しがる声を聞きたくてずっと待っているのに。『君』は以前優しくかった僕にとりつかれてばかりで、勝手に『僕』の気持ちを決めつけて、勝手に壁を作って怒っていた。『君』はまだ勘違いしているけれど、もう

『僕』は『君』にとっての優しい僕にはなれない。かけがえのない『君』相手に優しい僕のふりをしてしまったら、本当の『僕』まで偽物になってしまう。でも『君』を傷つけたくない。だから、すぐに心臓は止められそうにないけれど、死という名の楽園で『君』を救ってあげたい。二度と、優しい僕がいる世界を思い描くことがないように。これ以上、『君』が『僕』のせいで苦しまなくて済むように。でも、この救いは『君』が望んでいる優しい僕のやり方ではない。

だから『僕』はもう、優しい僕にはなれない。

②女性らしさが欠けた『私』からの『君』への愛

『私』はもう、主人公にはなれない。つまり、平和な世界で健全に生きて時には人に手を差し伸べられるヒーローのような存在にはもう、なれないということ。どうしてなのだろうか。『君』が罪を犯したから？だから『君』が世界に傷つけられているのは自業自得だと思っているから？それを分かっているくせに『私』から目を背ける、そんな『君』をまだ『私』は求めている。だから『君』の口から救いを求める声を聞きたくてずっと待っていたのに。『君』は以前優しかった私にとりつかれてばかりで、勝手に私も傷つけてくると思い込んで、勝手に壁を作って悲しんでいた。『君』が思っている通り、確かに『私』は『君』にとっての主人公にはなれない。健全ではない『君』を救ってしまったら『私』まで悪人になってしまう。でも『君』を見捨てられない。だから、すぐに心臓は止められそうにはないけれど、死という名の楽園で『君』を救ってあげたい。二度と、私がない世界を思い描くことがないように。これ以上『君』が誰からも苦しみを与えられないように。でも、この救いは『君』が望んでいる主人公のやり方ではない。

だから『私』はもう、主人公にはなれない。